# 要　旨

## 日本語教育における中国人学習者の「そうだ」「ようだ」「らしい」の誤用を踏まえた指導方法について

9N14002
高　梦天

「そうだ」「ようだ」「らしい」は極めて類似の意味を表し、共通する用法が多いという点で学習者の混乱を招く。特に、中国語ではすべて「好像」で訳すことができるため、中国人学習者により複雑に感じさせる。本研究では、「そうだ」「ようだ」「らしい」のさまざまな意味と用法を先行研究からまとめるとともに、中国人学習者対象にその誤用調査を行った。それらの結果を踏まえ、中国人学習者に対する指導法を提案した。

2. の先行研究では、「そうだ」「ようだ」「らしい」の意味と用法に関する研究、中国人学習者にとって「そうだ」「ようだ」「らしい」の使い分けが難しい理由の研究と中国人学習者の「そうだ」「ようだ」「らしい」の誤用の研究の三つの方向へ進んでいることを示した。「そうだ」「ようだ」「らしい」それぞれの用法のうち、八つの用法は中国語の「好像」に対応し、中国人学習者にとっては基本的な意味上の区別で誤用が生じやすいと考えられるため、「混同」を重点的に調査した。

3. では、中国語の「好像」に対応する八つの用法に関して、大阪市内の日本語学校の初級レベルと中級レベルの中国語母語話者留学生 20 名ずつ計 40 名を対象に調査を行った。その結果、①学習段階に関係なく習得状況の差が見られないこと、②用法別の正確率の差が存在していること、③意味上の「混同」が多いことの三つの問題点を明らかにした。

4. では 3. で取り出した問題点に基づいて「そうだ」「ようだ」「らしい」の指導方法を提案した。まずその基本方針として、①中国語に訳さないこと、②一課に一つ

だけの用法を提出すること、③学習者にとって理解しにくい用法を排除すること、④やさしい用法から難しい用法へ、提出順の組み立てへの工夫をすること、⑤単文だけではなく、絵を加えて文脈や場面を提示すること、⑥各用法と共起しやすい副詞を一緒に提示することの六つを掲げた。その上で、「そうだ」の「寸前」用法を例として実際導入・説明・練習の計 60 分 1 コマの指導例を示した。

5. では、提出時期・導入順の妥当性の検討、練習教材の作成、提案した指導法の実践の 3 点を今後の課題として述べた。